

## 平成 24 年度 学術研究会開催

平成 25 年 2 月 3 日(日)本会会館 5 F 多目的ホールにおいて、標記学術研究会が会員 116 名、一般 8 名、学生 42 名計 166 名の参加の下開催された。

今年度の特別講演は、愛知医科大学医学部解剖学講座（学際的痛みセンター理学療法士 兼務） 大道 裕介先生をお招きし「痛み学—急性痛と慢性痛の違い—」についてご講演いただいた。

外傷などに伴う痛覚受容器の興奮によって生じる急性痛とは別に、神経系の可塑的異常に伴って生じる病態痛が存在するとのことで、この病態痛を“慢性痛症”と総称して、急性痛とは全く機序の異なる別の痛みとして整理する必要があるとの提案がなされた。従来から言われていたように、痛みが数か月長く続けば、そのすべてが慢性痛と一括に称されていたものの中に機序の全く異なる 2 つの痛みが含まれるという知見は、我々臨床家が痛みを適切に評価・治療していく上で、念頭に置くべき重要な情報となった。

特別講演の後、以下の会員発表 9 題、学術部推薦発表 1 題が発表された。

- ・鎖骨骨折についての考察 観血療法適応例に遭遇して 尼 崎支部 上濱 博文会員
- ・転倒による高齢者の上腕骨脱臼骨折と上腕骨外科頸骨折の 2 症例について 阪神北支部 根来 保彦会員
- ・変形性膝関節症が起因と考えられる膝関節傷害の一症例 阪神南支部 古谷 昌史会員
- ・指骨骨折に対する GB（grasping a bandage）固定法 神戸東支部 塚本 顯彦会員
- ・股関節 ROM から観た腰痛評価の考察 神戸西支部 岡田 英士会員
- ・ゼロプロマッサー（ZERO Pro Massseur）を使った施術法 東 播支部 竹本 浩彰会員
- ・ハイボルテージ療法 姫 路支部 西山 武男会員
- ・スポーツ外傷についての一考察 西 播支部 内海 宏哉会員
- ・肩関節前方脱臼の一整備例 但 馬支部 濱 篤史会員

### 学術部推薦発表

- ・橈骨遠位端関節内骨折における指導管理の工夫 森ノ宮柔道整備研究会 西川 知也先生

最後の学術部推薦発表では、長期固定による拘縮予防のためには固定後、早期より自動運動を開始しなければならないが、自動運動は、手関節外在筋の収縮を惹起し、再転位の危険因子になると数値的に証明し自動運動より他動運動の方が良い結果が得られるという発表であった。学術部が掲げる「温故知新から温故啓新へ」のスローガンに見合った学術研究会であったと思われる。



特別講演 大道 裕介 先生



発表者一同